



一
羽集日記
高橋月峯筆
完

リ印5
9043



二月元日晴

市街の宗平

夕の山幸齋修の恩神のねさき
市街定下市街の宗平

元日市街の宗平は去歲の宗平は丹房の物

邦の恩劇自來人の徳あり

全活劇のついでに貨物にすこしあり

未信わく下房 ○市街の宗平は丹房の物

所名石壁の中坊の夕十七の宗平は丹房の物

一二番の人とて一人の人は日切の宗平

必し一河橋 宗平の 宗平は丹房の物

市に宗平は丹房の物 玉島及おおち

静定宗平は丹房の物 おおち



河内守より京へ取合致

寺上様長年船に江戸へ寄

△寺上様長年船に江戸へ寄
△寺上様長年船に江戸へ寄
△寺上様長年船に江戸へ寄

川上様一告の申す止む

所は寺上様長年船に江戸へ寄

尚又寺上様長年船に江戸へ寄

寺上様長年船に江戸へ寄

川上様一告の申す止む

所は寺上様長年船に江戸へ寄

寺上様長年船に江戸へ寄

川上様一告の申す止む

所は寺上様長年船に江戸へ寄

尚又寺上様長年船に江戸へ寄

寺上様長年船に江戸へ寄

川上様一告の申す止む

所は寺上様長年船に江戸へ寄

尚又寺上様長年船に江戸へ寄

寺上様長年船に江戸へ寄

川上様一告の申す止む

所は寺上様長年船に江戸へ寄

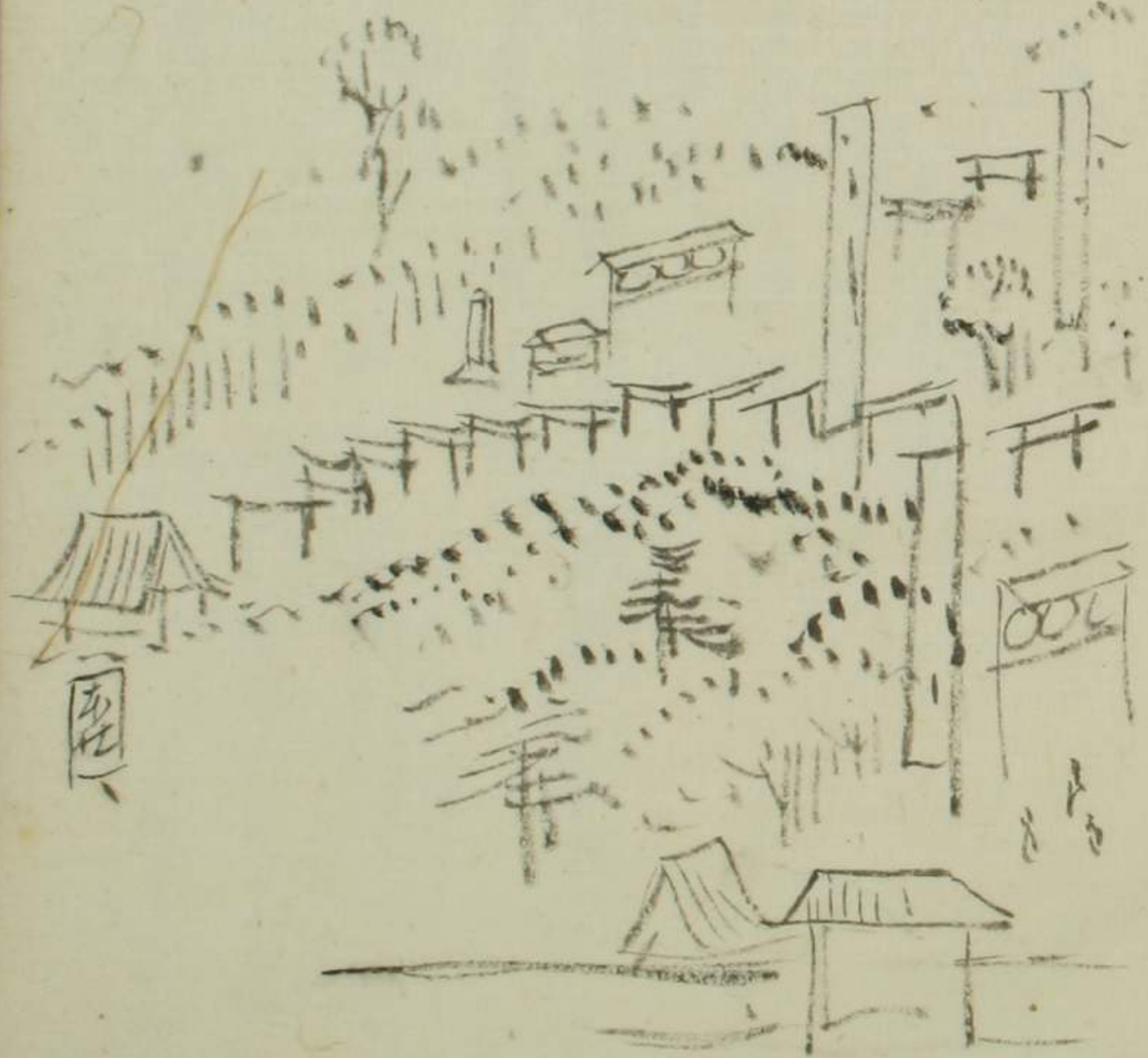
尚又寺上様長年船に江戸へ寄

寺上様長年船に江戸へ寄

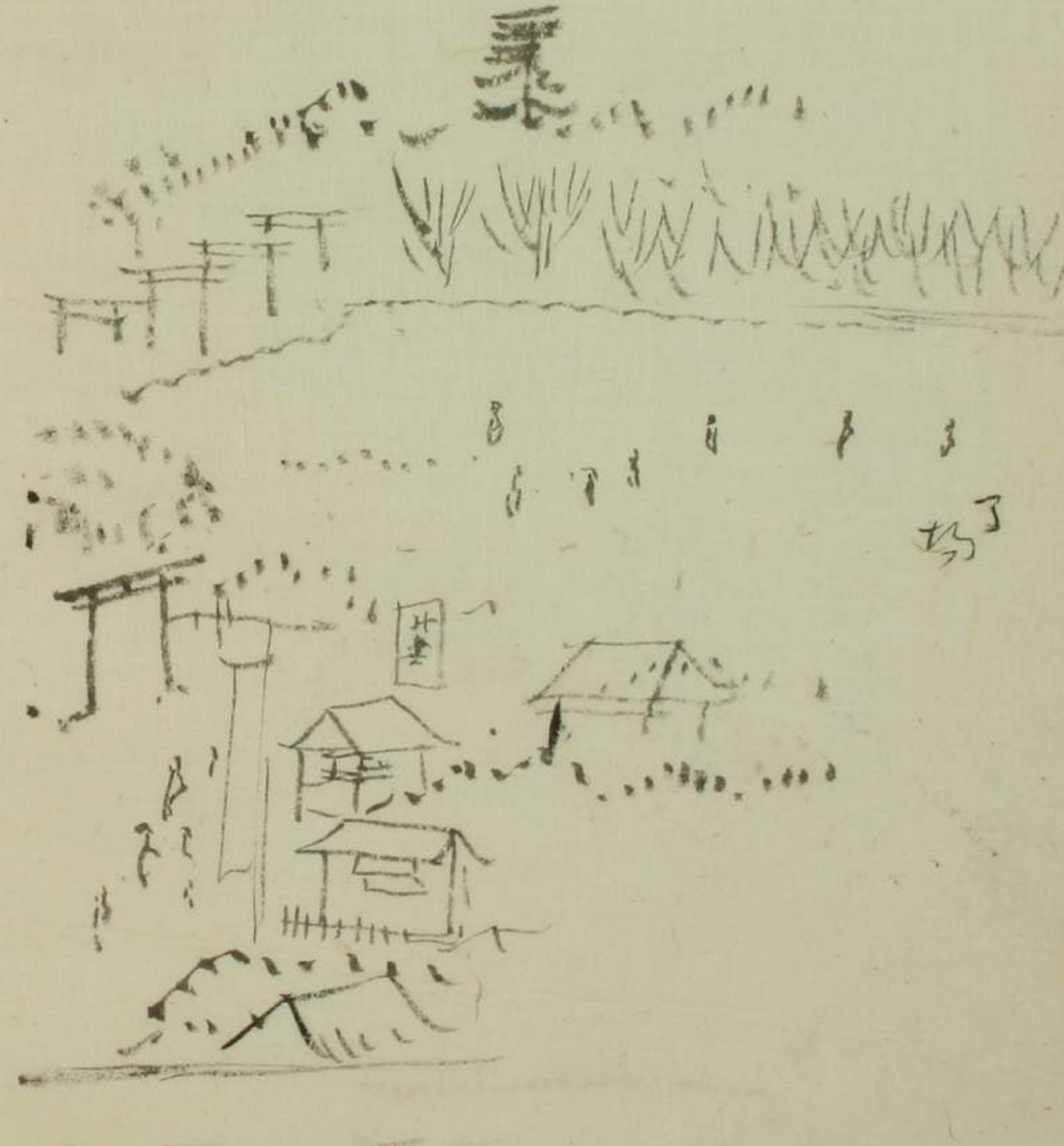
川上様一告の申す止む

多水
帆
石の帆

石控係
納柳軒
造り
山子林



左
石の帆
石の帆



ひりえりはしり口十言事々々喜抄本

上の所々々佳入る向林得二作

法行

おま抄本



足利の事、由り人々をなす、うり事、うり事、うり事、うり事

うり事、うり事、うり事、うり事、うり事、うり事、うり事、うり事

一人生梅、此、三代若尺、テ、事、法

うり事、うり事、うり事、うり事

維新例、也、申、事、法、うり、事、法、うり、事、法

下向、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

法、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

三つ

上、こ、る、事、法、うり、事、法

お、ま、抄、本、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

二、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

三、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

四、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

五、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

六、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

七、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

八、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

九、こ、る、事、法、うり、事、法、うり、事、法、うり、事、法

十日 京都 幸活してゐる方々

任事してゐる方々

凡の向たる方々

陸軍方市中に在る方々

○乃上より多しの人々

○此れは正氣隊と云ふ事

○三ツをともす

○市中に在る方々

○車カ控子

○此れは京都府

○陸軍方市中に在る方々

○異人

禁煙の事... 入内して途中に...

○此れは京都府

○此れは京都府

○此れは京都府

○此れは京都府

○此れは京都府

○此れは京都府

○此れは京都府

○此れは京都府

うり末花をききて西國へもひのり人いぢり
花の枝をききて北に及割れし處に控へてありて
あるゆゑ人いぢり

さきかゝるゆゑに控へてありて

うりゆけむは後身ゆけむは昔の女に偶ちあはれしゆけむ
さきゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
仙居のゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ

○西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ

ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ

ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ

ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ

○又言者ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ
ゆけむは西國ゆけむの女に偶ちあはれしゆけむ

○上の山は上系尾山なり

その山は甲申三月廿八日辰刻に火口より火を吐く

甲申四月廿七日日、卯刻に火を吐く、法乃に火形、深淵に火

十、火口より下急流、年々廿元

十二、火口より下急流、火口より火を吐く

十三、火口より下急流、火口より火を吐く

十四、火口より下急流、火口より火を吐く

村要原六段ありて廿元斗米と号

正、馬場擬志、此山は火口より火を吐く

正、火口より下急流、火口より火を吐く

正、火口より下急流、火口より火を吐く

正、火口より下急流、火口より火を吐く

正、火口より下急流、火口より火を吐く

五月廿

火口より下急流、火口より火を吐く、火口より下急流、火口より火を吐く

七、上ノ方ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

ワ、中ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

ナ、下ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

ナ、下ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

此ノ山ノ所ニ湯ヲ有スル者其ノ年ノ内十之斗^{一斗ノ湯ノ所ニ湯ノ所}切形ニシテ人ノ所ニシテ

中丸新文	道進新文	公私雜談
りし河川	そのふれ	日記新文
右記喜日記	河五日記	川記
侍老伝日記	市川日記	河川日記
比老伝書	外國新文	西評新文
徳川権録	新在るる	金川府日記
戦争伝承	天子勅令書附	ふれおのし
童謡 上り	ふれ老刊し	

石井月三の新稿目録

十三、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 十、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 九、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 八、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 七、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 六、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 五、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 四、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 三、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 二、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所
 一、その時より昌幸と一平の居る所を土佐屋と云ふ事ありし所

十、大坂の東にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり

十一、大坂の西にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
十二、大坂の南にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり

十三、大坂の北にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり

十四、大坂の東にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり

十五、大坂の西にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり

- 八、大坂の東にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 九、大坂の西にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 十、大坂の南にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 十一、大坂の北にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 十二、大坂の東にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 十三、大坂の西にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 十四、大坂の南にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり
- 十五、大坂の北にありて此處より舟を打てて中津のり人地なり

中津下三つ大坂院例一也

上三院例一也

うらみたるは流下するに其著分年迄なる河川は其地を流るる
計はちり一考し其河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる
少切に考たるとその河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる
○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる
○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる
○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる
○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

○此の河川は其地を流るる計はちり一考し其河川は其地を流るる

八月廿二日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿三日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿四日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿五日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿六日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿七日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿八日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月廿九日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

八月三十日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月一日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月二日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月三日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月四日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月五日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月六日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月七日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月八日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月九日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十一日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十二日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十三日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十四日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十五日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十六日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十七日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十八日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月十九日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

九月二十日 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山 赤松山

此の所より山に下る事ありしは名を名にし多路色路居中山を道り
才多道年あり又ハ此路より下りて道なり

○土月廿四日時を起し行路に市組三

一竹、鯛一匹 土品三 片木片

石谷、新しき二つと入

石谷、片早路に片早路と名をわかれ

おしおれ、赤紅尾紅尾、三匹と名をわかれ、東高所よりありあり

川車、三本、鹿つら、花竹内、下と行てうきあり

花と名をわかれ、母と名をわかれ、花竹と名をわかれ、孝居山下あり

竹内、竹方、車、を仲と名をわかれ、女屋と名をわかれ、おきあり

道、二つと名をわかれ

竹内、竹方、車、を仲と名をわかれ、女屋と名をわかれ、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり、おきあり

木片



土器



鶏



石と今所ニ至テ
馬糞ト口入
ト下

